週刊NY生活
教育なんでも相談室

ネグレクトとチャイルド・アビューズにご注意

ニューヨーク日本人教育審議会
教育文化交流センター・教育相談室　教育相談員
クリニカルサイコロジスト　森真佐子相談員（Ph.D.）

Q　去年、来米しました。先日現地校に通う小学生の息子がアートの時間に、父親と一緒にベッドで寝ている絵を描いたところ、担任教師とスクールサイコロジストから呼び出しがあり、いろいろ質問されました。性的虐待の可能性を疑ったようで大変驚きました。どういうことなのでしょうか。

（NY州、母）

A　日米の間で習慣や法律などが大きく異なるために、このようにとまどいを起こすようなことが時折見られます。まず日米間には子どもを守る法律に大きな違いがあります。アメリカでは子どもを対象にした犯罪件数が日本よりも圧倒的に多く、子どもの安全を守るための法律が日本に比べずっと厳しいのです。日本では当たり前のように行っていることでも、アメリカで同じようにしていると児童保護法に反していると見なされ、州の児童保護局（NY州では“Child Protective Service”、略してCPS）にネグレクト（“Neglect”、親の責任放棄・怠慢）またはチャイルドアビューズ（“Child Abuse”、児童虐待）の疑いで通報されてしまう可能性もあるため注意が必要です。今回は日本人がアメリカで疑われてしまう可能性がある日本の生活習慣についていくつか取り上げましょう。

まずは子どもだけの外出や留守番があります。日本では小学校低学年でも親の外出中に子どもだけで長時間留守番したり、子ども同士で親の監視なしに近所の公園で遊んだり、また子ども1人で地下鉄やバスで通学することが日常的に見られます。ところがアメリカではこれらのようなことはまずありません。小学生以下の子どもを大人の監視なしで長時間留守番させたり、子どもだけで外で数時間遊ばせたりなどすると、親が親としての責任を果たしていない、ネグレクトであると見なされる可能性があります。親が買い物をしてる間に子どもだけで車の中で待たせることも問題となり得ます。

ただ、子どもがこの年齢だと1人で留守番・外出させてはいけない、などと法律で定められているわけではありません。何らかの非常事態があった時に、子どもに対応できる能力があるかどうかが判断の1つのポイントとなります。例えば、子どもだけで留守番している時に火事が発生した、侵入者があったなどという場合に、「911」をダイヤルし事情説明して住所が伝えられるか、近所に助けを呼びに行けるか、自分の安全を守るために行動できるか、などということが判断の基準となります。目安として、アメリカでは12歳になると子どもだけで留守番、そう遠くない場所への外出などさせる家庭が多いようです。

今回のご相談者のように、日本では当たり前の親子での入浴や添い寝がもとで、親が性的虐待（“Sexual abuse”）の疑いをかけられた例もあります。アメリカではまだ子どもが1歳にも満たないころから親のベッドルームではなく子どもの部屋で寝かせます。入浴も小学校にあがる頃までには親とは別にします。着替えも別で、子どもが親の裸を見ることはまずありません。日本では信じられないことですが、以前アメリカ在住の日本人家庭で、入浴後に息子が裸で父親と一緒に遊んでいるところを母親が写真に取り、現像に出したところ性的虐待と間違われ通報されたという例もありました。また夏に家の前で2歳の子を全裸で行水させていたらパトカーが来て注意されたということもありました。

添い寝や親子での入浴などは、親子の絆やコミュニケーションを養う日本の貴重な習慣だと思います。アメリカでは自然に行われる親子間のハグやキス、「I love you」と直接的に愛情表現することを習慣としない日本の文化に昔からあるものです。日米の文化の差からこのような疑いが起こってしまうのはとても遺憾です。しかし異文化の中、上記のような誤解が起こってしまう可能性があることを認識し、あらぬ疑いをかけられないように十分注意したいものです。

本欄への相談は

●NY日本人教育審議会
教育文化交流センター
Tel: 914-305-2411
Fax: 914-921-0393
info@jec-ny.org
●コメット
www.faminet.net/komet
jt22461007@yahoo.co.jp

プリンストン日本語学校

「バイリンガル」勉強会

5月24日、プリンストン日本語学校（朽木史昌 文部科学省派遣校長）にて、第2回「バイリンガル・多言語環境で育つ子どもたちを支えるための勉強会」が開催された。同校日本語継承語部の市原理瑠部長が司会進行と講師を務め、教員や保護者あわせて14人が参加し、活発な意見交換が行われた。

第2回のテーマは「母語と継承語」。冒頭の自己紹介では、各家庭の日本語環境や帰国予定の有無、家族・コミュニティ内での日本語使用状況、言語環境に関する悩みなどが共有された。また「子どもにどのような目的で日本語を身につけてほしいか」についても意見が交わされ、「家族や日本の親戚と不自由なく日本語で会話してほしい」「将来の進路選択の際、日本語・英語の両方で学べる力を身につけてほしい」「帰国時に支障なく生活できる日本語力を養いたい」といった声が聞かれた。

講義では、市原部長が「国語」と「日本語」の違いについて背景を伝え、海外における日本語学習の環境を3つに分類して紹介した。1つ目は、明治時代の国家形成政策の中で生まれた「一国一語」の考え方に基づく日本語教育であり、補習授業校における「国語」がその代表例である。2つ目は、家族やコミュニティとの情緒的なつながりを支える「継承語」としての日本語である。国語と同様に生活言語から学習言語へ発展するが柔軟な時間枠で学び、それぞれの文化的背景や視点を尊重しながら日本語を育んでいく考え方が示された。3つ目は「外国語」として学ぶ日本語である。また、市原部長は言語学者Vivian Cook氏の著作を引用し、母語話者を理想的な到達目標とみなす考え方に疑問を投げかけ、言語教育の目的は2つの言語と文化の間に立つ独自の主体性を育むことだと、バイリンガル教育に関する基本的な考え方について説明した。

親がバイリンガル教育を望んでも、子どもが結果として単一言語話者（モノリンガル）に育つ場合がある英語優位の社会環境の中で育つ子どもたちは、社会に適応するため周囲との「異質性」に対する自己防衛として、日本語のようなマイノリティ言語の使用を避けることがあるという。また、日本語で自分の考えを十分に表現できないことへの羞恥心から、日本語での発話を避ける傾向も指摘された。こうした状況から、子どもの言語形成には社会環境が大きく影響しており、家庭内の努力だけでは解決が難しい側面もあると説明した。そのうえで、産出的なバイリンガルを育てるためには、日本語を日常的に使わざるを得ない環境づくりが重要だと述べた。例えば、親がそれぞれ一つの言語を一貫して使用する「One Parent One Language（OPOL）」の実践や、その言葉を使わなければならない必要性を増やし、日本語学習に意義を見出せるようにすることが、子どもの自己肯定感や主体性を高めることにつながるため、日本語や日本文化とつながるコミュニティの重要性を紹介した。

参加者からは、家庭での日本語教育への思いや、バイリンガル教育ならではの悩みが共有され、市原部長の講義を通して、子どものモチベーション維持やバイリンガル教育の構造について理解を深める機会となった。保護者にとっても、多くの気づきを得られる有意義な勉強会となった。

第3回勉強会は6月21日に開催予定。

フィラデルフィア日本語補習授業校

アダルトコース学習発表会

5月23日、フィラデルフィア日本語補習授業校（福澤隆治校長）アダルトコースは、1年の学習成果を披露する「学習発表会」を開催した。まずは日本語学習1年目のクラスが登場。日本人のジェスチャーや習慣について調査したレポート発表、チームワークが光るスキット発表など多彩な形式で堂々とした発表を見せた。2年目のクラスは映像と口頭を組み合わせたユニークな発表で会場の笑いを誘った。3年目のクラスは、授業で習った「オノマトペ」と敬語を盛り込んだオリジナルスキットを披露し、日頃の学習成果を存分に発揮した。最終学年となる4年目のクラスは「あっちむいてほい」や「丁半」、「しりとり」といった日本の伝統的な遊びを紹介。最後に、観客席からボランティアを募って、学生チーム対教師チームの「しりとり」対決を行い、会場が大いに盛り上がる中、発表会を締めくくった。

みらい塾
みらい塾の学びをご家庭へ
ネットショップ
・問題たっぷり!
・ピンポイントで学習できる!
・くり返し使える!
www.miray109.com

ニューヨークと日本をつなぐ情操教育
楽しく学べて実力のつく
ピアノ・バイオリン・チェロ
3～4歳、5～6歳、初級・中級・上級・編入生
Jimbo Music Studio　☎201-461-6502
フォートリー・ポートワシントン

ケネディ・インターナショナルスクール
Kennedy International School
全日制幼児クラス
2026年度出願受付中
ここがポイント!
・日英バイリンガルプログラム（2歳から5歳）
・朝8時から夕方6時までのお預かり
・ファイナンシャルエイドの制度あり
見学随時可能
225 East 43rd Street New York, NY 10017・(212)-681-7929
japaneseprogram@kennedyinternational.org

2026年度 NY育英学園 サマースクール
申し込み受付中!
●幼児部、小学部、英語、野球教室、Lake Greeleyキャンプの5つのプログラム
●未就園～中学生まで参加可能
●バス送迎あり（NJ、NY、West Chesterエリア）
お問い合わせ　NY育英学園 Phone: 201-947-4832
E-mail: summerschool@nyikuei.org